

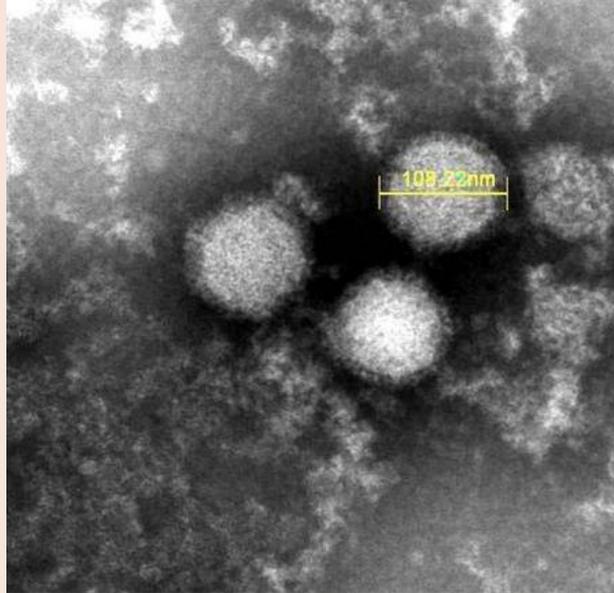
## 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)の概要について

岡山県環境保健センター  
岸本寿男

### 重症熱性血小板減少症候群 Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome(SFTS)

- ・ 2009年中国湖北省と河南省の山岳地域
- ・ 75%が50才以上
- ・ ヒト顆粒球アナプラズマ症に類似
- ・ 発熱、血小板減少、胃腸症状、白血球減少
- ・ 21/171 (12%) 死亡
- ・ 新種のブニヤウイルス (SFTSウイルス)
- ・ ヒトからヒトへの感染 限定的
- ・ 患者血清中  $10^3$ - $10^9$ コピー/ml
- ・ 流行地域のフタトゲチマダニ 5.4%陽性

日本の患者から分離されたSFTSウイルスの  
電子顕微鏡写真(国立感染症研究所提供)



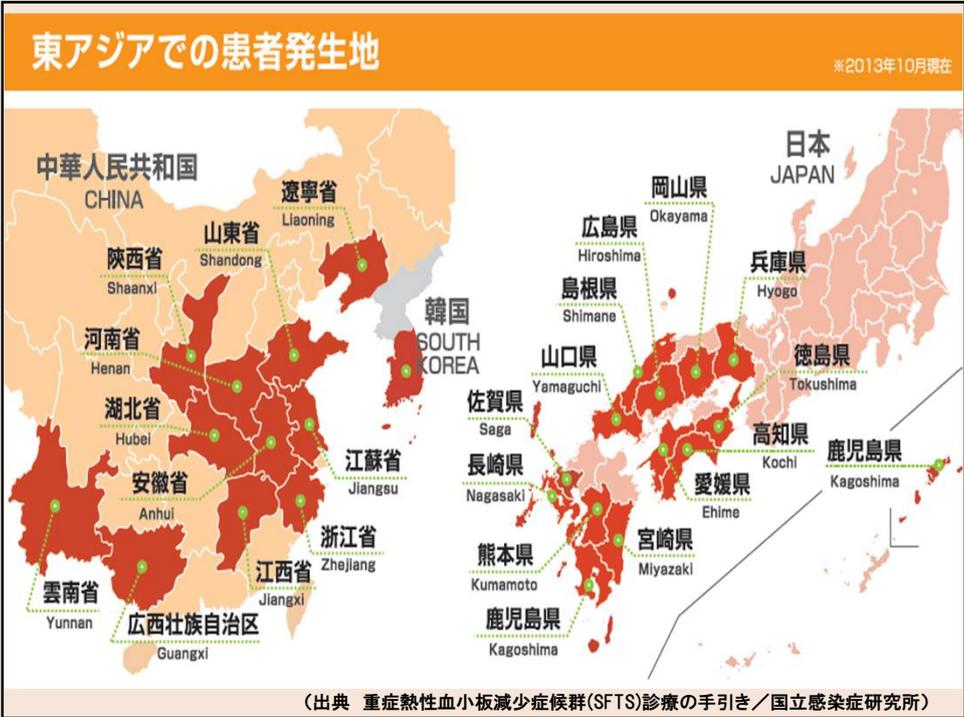
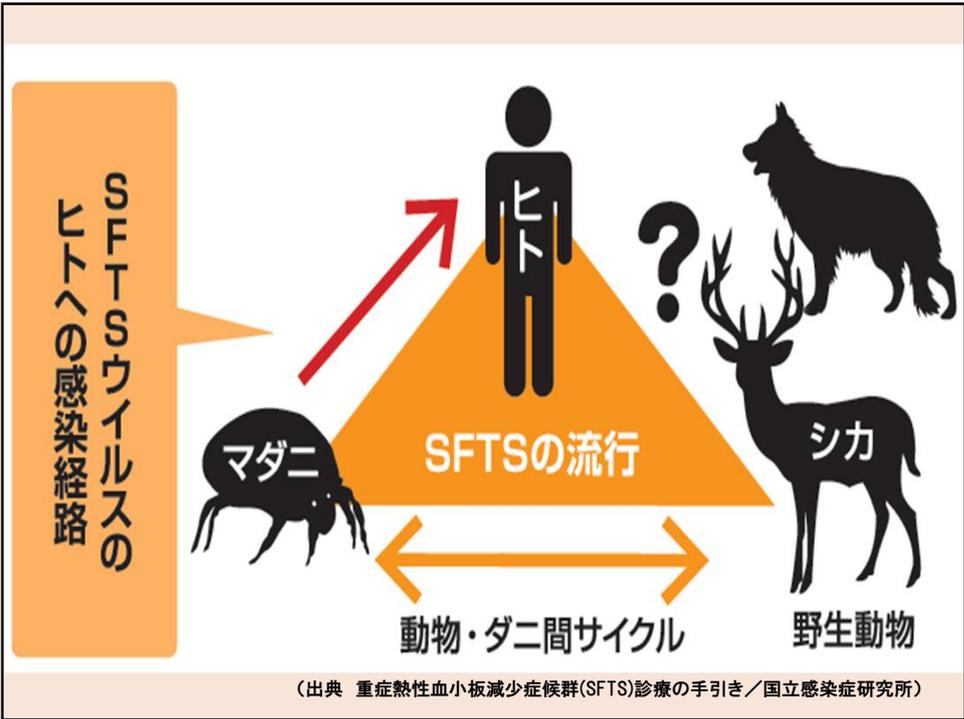
フタゲチマダニ

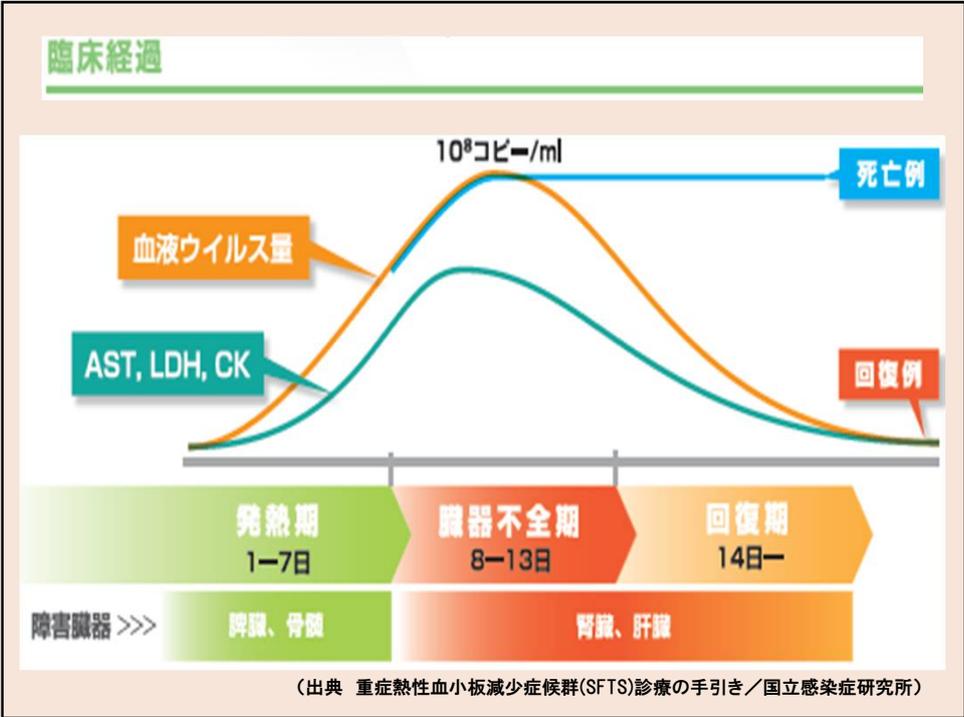
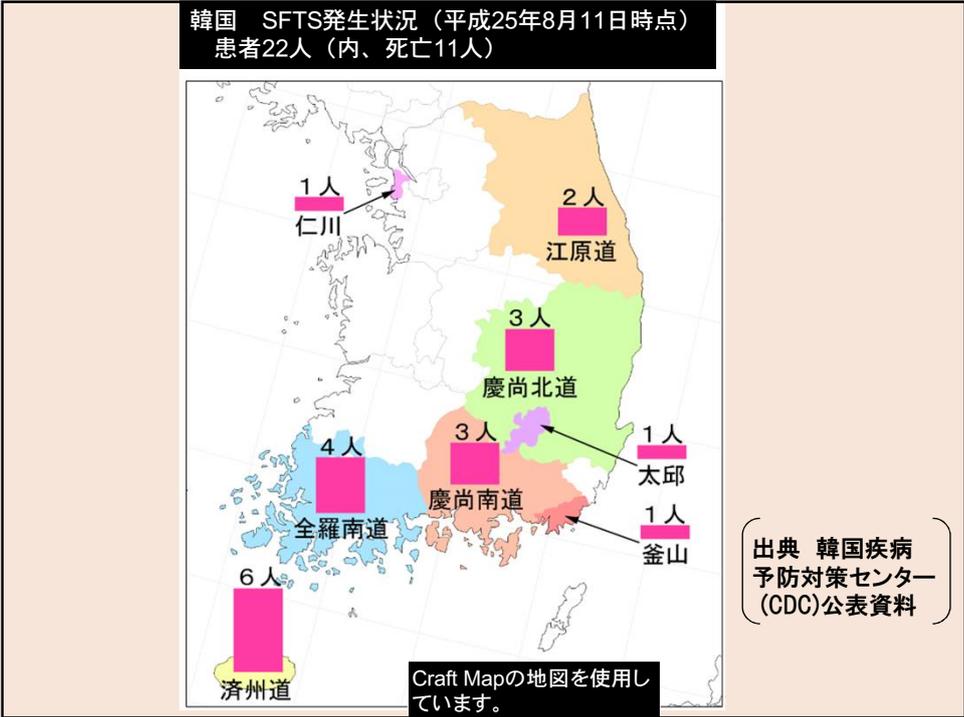


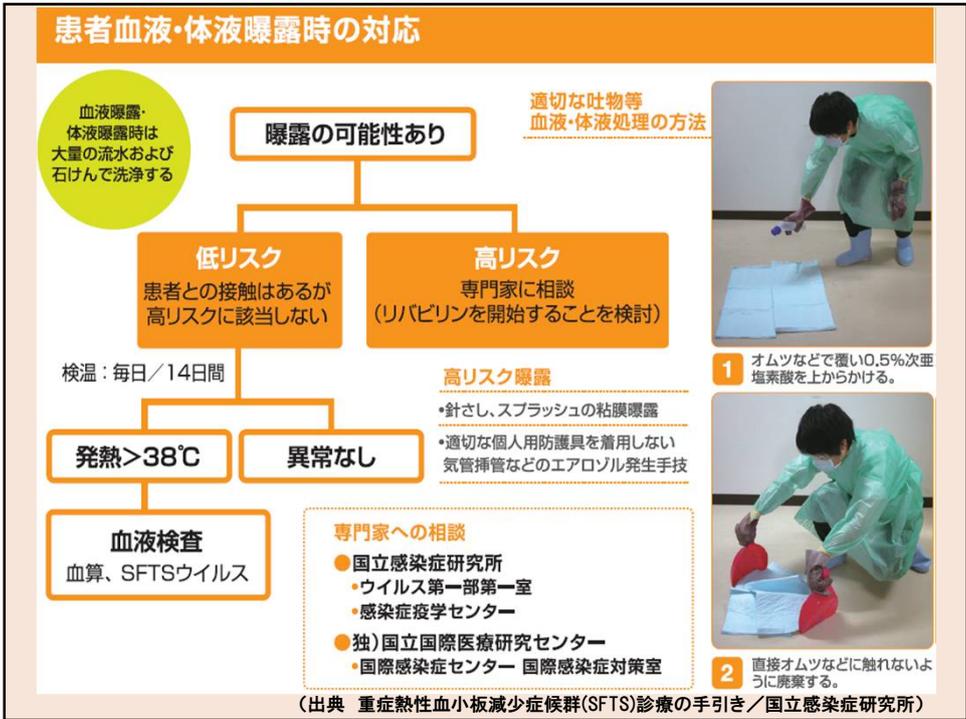
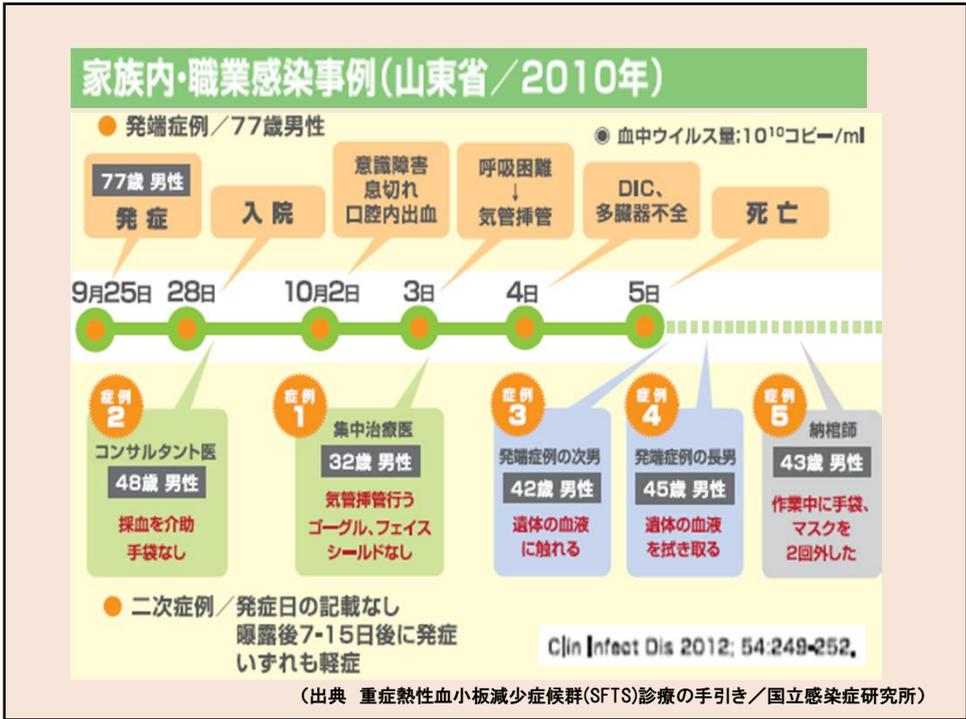
タカサゴキラマダニ



(国立感染症研究所 提供)







## SFTSの症例定義

### 医師の報告を求める条件

以下の1~7の項目を全て満たす患者

1. 38℃以上の発熱
2. 消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血のいずれか）
3. 血小板減少（10万/mm<sup>3</sup>未満）
4. 白血球減少（4000 /mm<sup>3</sup>未満）
5. AST、ALT、LDHの上昇（いずれも病院の基準値上限を超える値）
6. 他に明らかな原因がない

感染症法ではこの7項目はない

平成25年1月30日厚生労働省健康局結核感染症課長通知

## 診断確定に必要な検査

検査方法	検査材料
分離・同定による病原体の検出	血液、咽頭拭い液、尿
PCR法による病原体の遺伝子の検出	
ELISA法又は蛍光抗体法による抗体の検出 (IgM抗体の検出又はペア血清による抗体陽転若しくは抗体価の有意の上昇)	血清
中和試験による抗体の検出(ペア血清による抗体陽転又は抗体価の有意の上昇)	

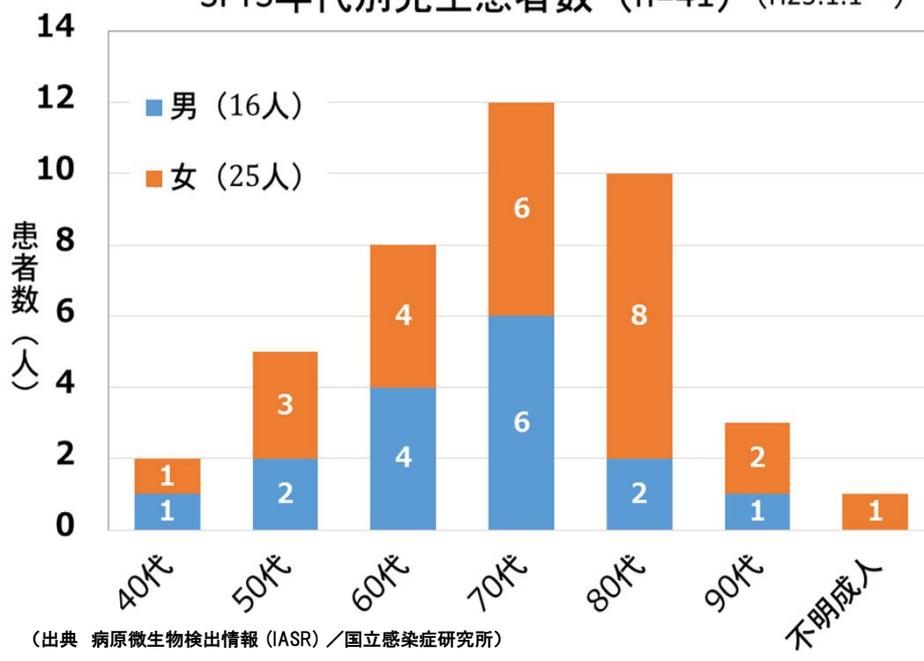
## 日本におけるSFTS初報告例（山口県）

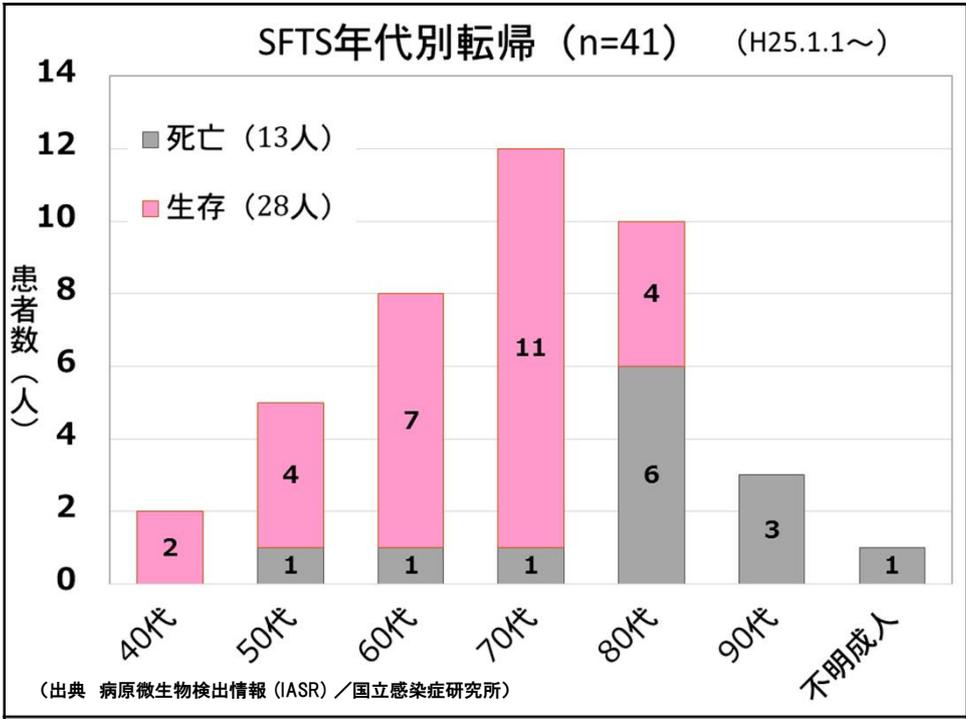
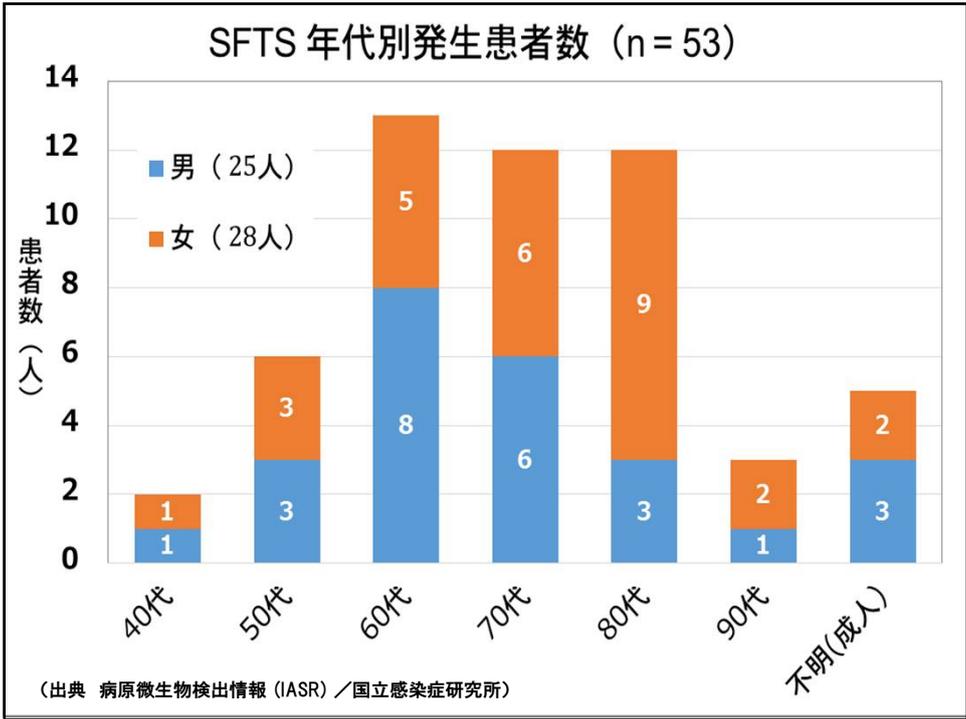
山口県総合医療センター 高橋徹ら報告

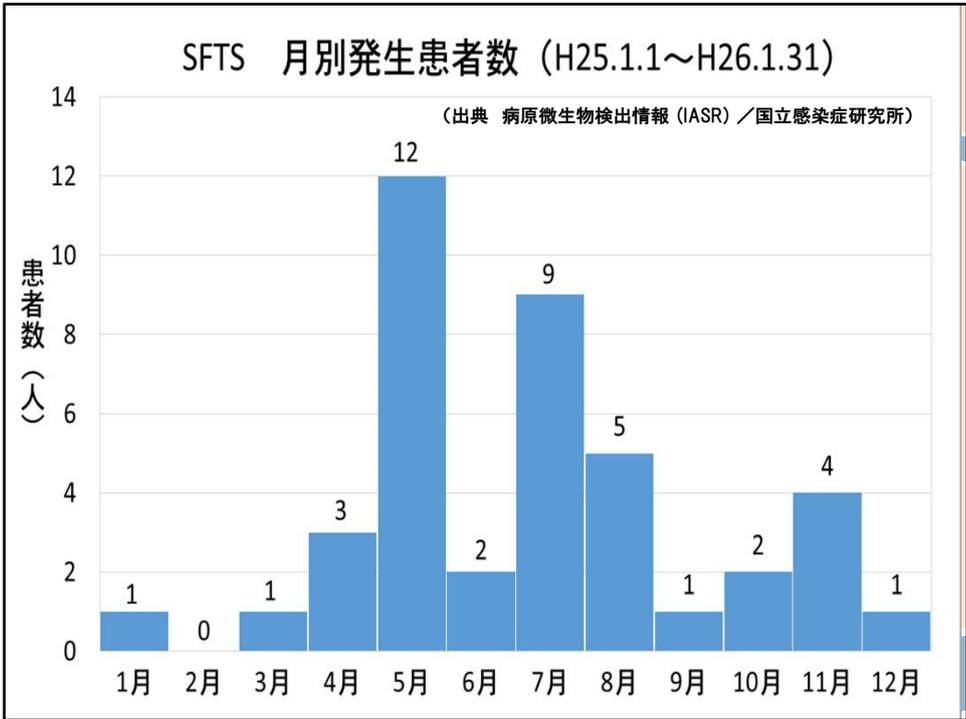
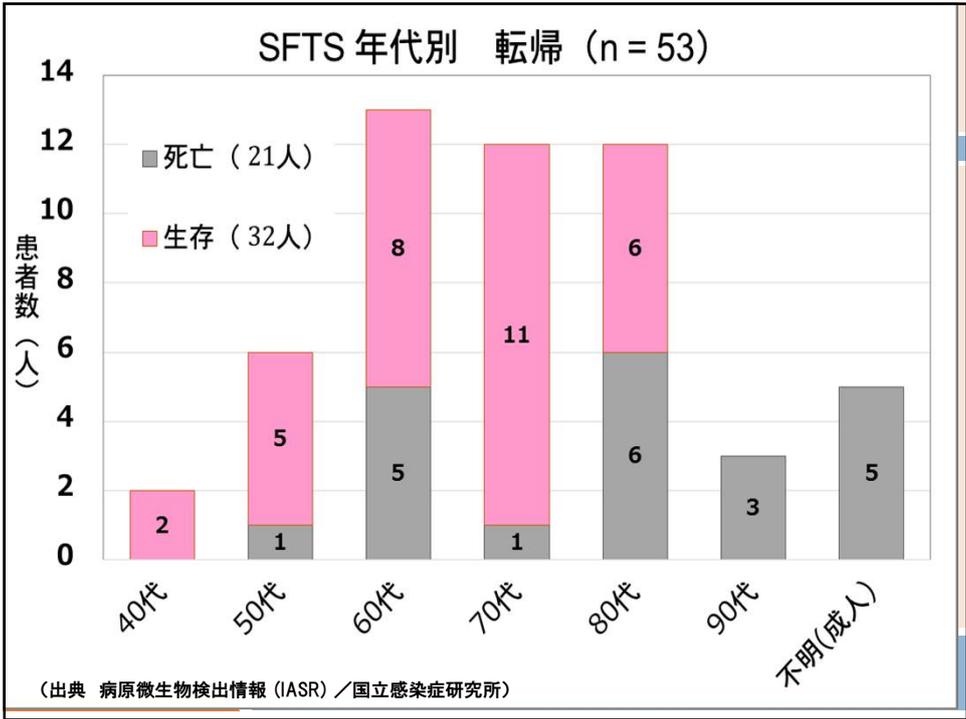
50代女性 海外渡航歴はない、特筆すべき基礎疾患はない  
 2012年秋、39℃の発熱、嘔吐、黒色下痢便  
 近医で血球減少を指摘され紹介入院  
 白血球数（ $400 / \text{mm}^3$ ）、血小板数（ $8.9 \times 10^4 / \text{mm}^3$ ）  
 AST、ALT、LDH、CKの高値  
 血液凝固系の異常（DIC）  
 フェリチンの著明な上昇  
 入院2日目に四肢の脱力  
 血球減少は進行性  
 下血と肉眼的血尿 全身状態悪化  
 6日目に死亡

13

SFTS年代別発生患者数（n=41）（H25.1.1～）



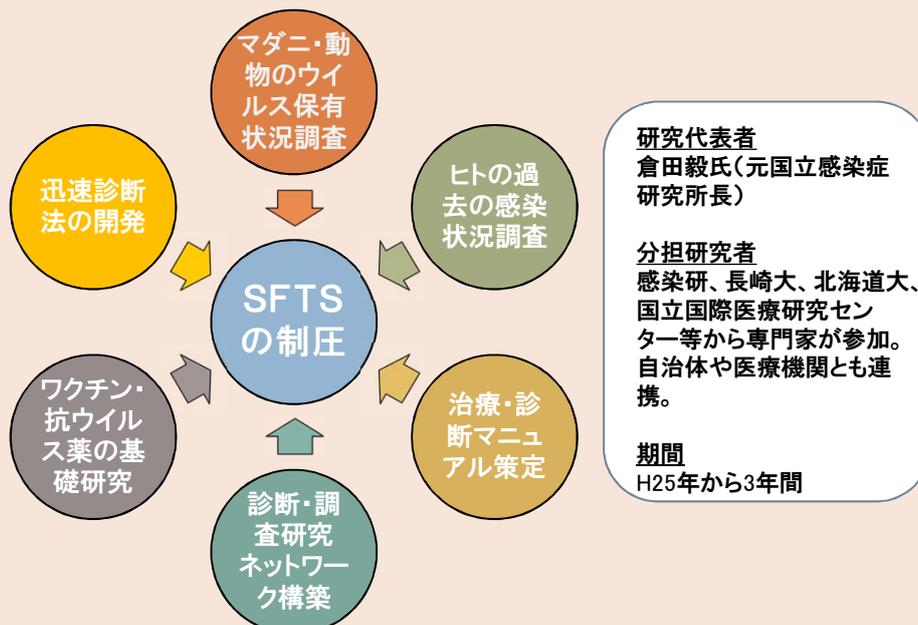




## 中国地方東部～近畿地方西部でのSFTS症例

県(累計)	公表日	年齢	性別	転帰	発症時期または死亡時期
岡山県(1)	H25.7.12	80歳代	女	死亡	平成25年7月
岡山県(2)	H25.7.23	80歳代	女	生存	平成25年7月
兵庫県(1)	H25.8.6	70歳代	女	生存	平成25年7月
兵庫県(2)	H25.8.9	80歳代	女	死亡	平成25年5月

## SFTSの実態解明に関する総合的研究



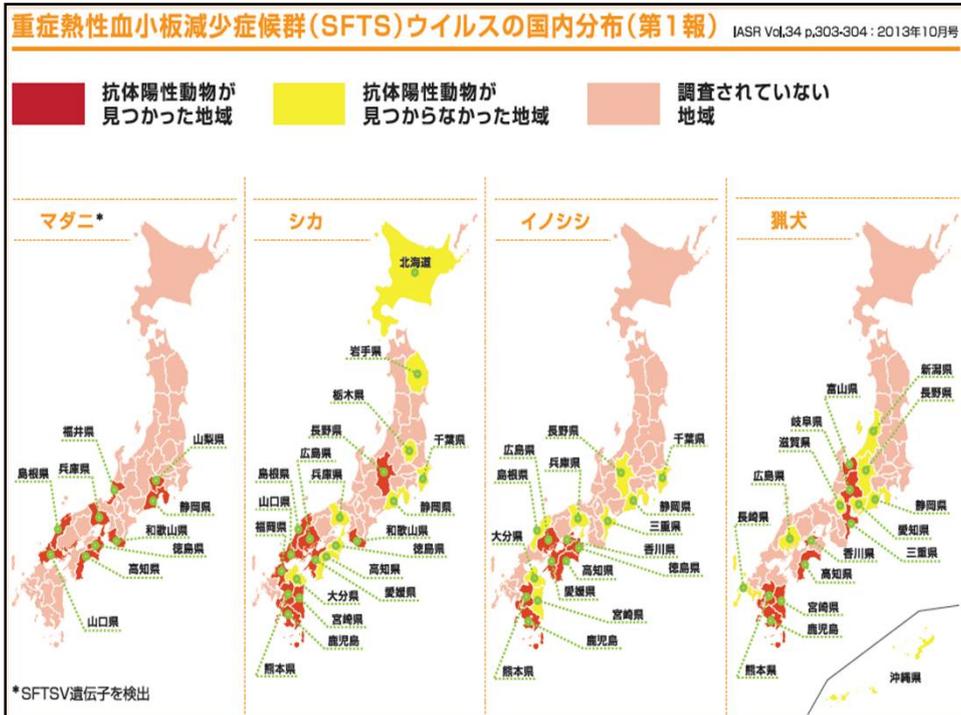
# マダニ類の調査

調査の進め方について検討が必要

1. どの場所で調査するか
2. 誰が調査を行うか
3. いつから調査するか
4. 調査内容はどのようなものか
5. 調査を行うにあたり、関係者からの事前の了解の取り付けはどのように行うか
6. 調査結果の公表はどのように行うべきか



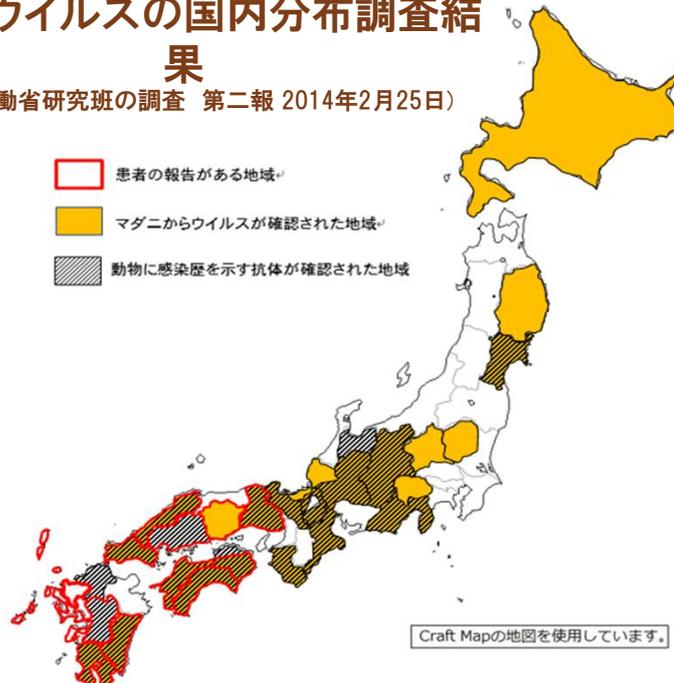
写真提供 国立感染症研究所昆虫医科学部



## SFTSウイルスの国内分布調査結果

(厚生労働省研究班の調査 第二報 2014年2月25日)

- 患者の報告がある地域
- マダニからウイルスが確認された地域
- 動物に感染歴を示す抗体が確認された地域



## 岡山県におけるSFTSへの対応

- 2013年3月に検査体制を整備
- これまでに疑い例14例にSFTS検査を実施
- 7月に県内で初めての患者(死亡例)確認
- 2例目の報告
- 鑑別のため、随時リケッチア症に対する検査も併用
- SFTSに関する医療関係者への研修会開催
- マダニの疫学調査を計画するとともに研究班へも協力(森川、調研究分担者への研究協力者として参加)

## 岡山県内に生息するマダニの生態調査 及びSFTSウイルス保有状況調査

目的:SFTSウイルスを媒介するマダニの生態調査及びウイルス保有調査を実施し、本感染症の予防啓発の基礎資料とする  
方法:全県で7定点を設定し、月に1回ずつ調査。捕集したマダニは、種ごとの季節的消長とSFTSウイルスの保有率を明らかにする。

県内に生息するマダニのSFTSウイルス保有率と季節的消長

公表例

マダニ種	SFTS保有率	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
キチマダニ	○%												
フタゲチマダニ	○%												
ヤマアラシチマダニ	○%												
ヤマトマダニ	○%												
タカサゴキララマダニ	○%												

調査結果は、感染症情報センターHP等で公表し、住民に注意喚起

## 岡山県におけるSFTSに関連するマダニ調査 (2013年9月以降の途中経過)

種 類	和名	L	N	♀	♂	捕獲合計
<i>Haemaphysalis flava</i>	キチマダニ	142	100	0	8	250
<i>Haemaphysalis hystricis</i>	ヤマアラシチマダニ	0	7	2	3	12
<i>Haemaphysalis longicornis</i>	フタゲチマダニ	136	307	6	0	449
<i>Haemaphysalis megaspinosa</i>	オオトゲチマダニ	0	0	0	3	3
<i>Amblyomma testudinarium</i>	タカサゴキララマダニ	0	4	0	0	4
<i>Dermacentor taiwanensis</i>	台湾ンカクマダニ	0	0	1	0	1
合 計		278	418	9	14	719

## 今後の課題

### 解明すべき点

- 日本におけるSFTSの疫学(人、動物、マダニ)
- SFTSウイルスの自然界における存在様式
- 臨床的特徴、病態
- 診断・治療・予防および院内感染対策

### 解決すべき点

- 疫学調査にかかる物的人的予算をどうするか
- ダニ専門家の不足
- 行政の意欲の程度はさまざま
- 幅広い分野の専門家による地道な調査・研究
- 適切な情報公開